

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493600033
法人名	株式会社 エクセルシオールジャパン
事業所名	いきいきの家 泉
訪問調査日	平成20年9月29日
評価確定日	平成20年10月21日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493600033号
法人名	株式会社 エクセルシオールジャパン
事業所名	いきいきの家 泉
所在地	横浜市泉区上飯田町3805-6 (電話) 045-806-2351

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年9月29日	評価確定日	平成20年10月21日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 25日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 6月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	17人	常勤 13人	非常勤 4人	常勤換算 9.3人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2 階建ての 1,2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	300000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月25日 現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 76.8 歳	最低	57 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜寿光会クリニック 湘南泉病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは田園風景が残る静かな住宅地に位置しています。敷地内には、四季折々の草花が育てられ、玄関には、「ようこそ」と書かれたプレートが掲げてあります。玄関は常時開放されており、室内も鍵を掛けないケアが行われています。運営法人は有料老人ホームや在宅介護サービス等を千葉県や神奈川県で提供しています。手厚い人員配置で利用者の個別性を重視したケアが提供されています。建物は2階建ての綺麗でゆったりとした造りで、玄関や館内には、職員や利用者のお手製の品が飾られており、家庭的な温かみを感じられます。内部は、バリアフリーで、リフト浴の設備も有ります。天気の良い日には、近隣の小学校や幼稚園、地区センターへの散歩を行って、気分転換や活動意欲の向上を行っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題とされた理念については、話し合いによりホーム独自の理念が作成されています。運営推進会議も8月を皮切りに、4回開催されています。泉区グループホーム連絡会へ参加したり、近隣のグループホーム間で相互訪問や意見交換を行いネットワーク作りやサービスの質の向上に努めています。さらに、ターミナルケアの指針が作成されており、積極的なサービス向上・改善に向けての取組みが行われています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者が職員会議で説明して、職員全員に配布、記入後、各ユニットリーダーが取りまとめをおこない、管理者が記入しました。今回の外部評価、自己評価を、日頃のケアの振り返りの機会と捉え、今後サービスの向上に活かして行く意向です。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、自治会長、自治会副会長、泉区サービス課職員、地域包括支援センター、主任ケアマネ、利用者、家族、ホーム側が出席して、平成19年8月を皮切りに合同で4回開催されています。行事報告、事故報告、職員の異動等の内容が話し合われていました。また、自治会より行事予定をもらい、行事への参加を行いました。加えて、利用者がいなくなった事があり、協力体制の要請や、携帯電話(GPS機能)を持たしてはどうか等の意見があり、検討を行っています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会はありませんが、ホーム内のクリスマス会や敬老会等行事の際には、家族を招待してコミュニケーションを図っています。重要事項の説明の際にはホーム内外の苦情相談窓口の紹介を行っています。家族の訪問時や電話連絡の際にも、積極的に交流連携を図っています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、自治会主催の盆踊りや清掃活動に参加しています。近隣住民をホームのクリスマス会や敬老会へ招待して今回は、数名の参加がありました。お散歩時には、積極的に挨拶を交わって交流連携しています。犬の散歩の人に水を提供して立ち寄りもらったり、近隣のサロンに参加されているお年寄りが来訪されクラフトを教えてもらったり、日舞や新舞踊のボランティアの訪問もあり、交流連携に努めています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、ご利用者様の歩まれてきた生活を尊重し、安心できる環境で、笑顔あふれるいきいきと明るい生活が送れるよう支援します。」ホーム独自の理念を職員で話し合って作成し玄関に掲示しています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に掲示され、管理者は職員に折にふれ伝えていきます。介護計画も、理念に沿って個別性の尊重と利用者の笑顔が見られるケアの提供を念頭に作成されており、職員間で共有されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、自治会主催の盆踊りや清掃活動に参加しています。近隣住民をホームのクリスマス会や敬老会に招待し、数名の参加がありました。お散歩時にも積極的に挨拶を行っています。近隣住民には、犬の散歩時に水を提供してホームに立ち寄ってもらったり、交流連携に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回に引き続き自己評価票の記入は職員全員で行い、リーダーがそれを取りまとめるという方法で行いました。新人職員等には難しい部分もあったようですが皆で協力しながら作成できました。外部評価については守らなくてはならないルールとして理解しているという声も聞けました。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年8月に第1回目を開催し現在まで4回開催しています。会議の中では活動状況の報告を行い意見の交換をしています。その中で運営やケアについて具体的なアドバイスを頂いたり、「散歩の時など、だいたいの時間が判れば気にとめておくから」といった協力の申し出があるなど会議の成果が見え始めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	単身で制度利用の入居者が多いので生活状況報告などについて担当ケースワーカーに送付するなど、日常的にも連絡を取り合っています。また、泉区グループホーム連絡会にも参加し、区の高齢者福祉担当者との交流を行い質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「いきいき通信」を、行事予定や行事の写真を掲載して、3ヶ月に一度発行しています。毎月の請求書と一緒に、金銭出納帳や領収書を添付して、生活状況報告書には日々様子を記載して送っています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はありませんが、クリスマス会、敬老会をはじめホーム内での行事の際には、家族を招待しています。契約時に苦情相談のホーム内外の機関を紹介しています。また、運営推進会議や家族の来訪時に、積極的に連携交流を図っています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、ほとんどなく、新しい職員が入った場合には、まず、利用者への挨拶や紹介からはじめ、ベテラン職員と一緒に3～5週間ケアを行い、馴染みの関係を大切にしています。管理者は職員間のコミュニケーションに努め、休みの希望や休憩時間の確保や有給休暇の消化にも配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、外部研修や法人内の接遇研修、他施設への訪問研修等に参加して報告書を作成し、報告書の閲覧を通じて情報を共有しています。また、業務上不可欠な研修には、勤務時間内に受講して交通費が支給されています。		職員の習熟度や、経験に応じた育成計画・研修計画の作成が期待されます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、泉区グループホーム連絡会に参加して交流連携を行っています。また、運営推進会議を地域のグループホームが共同で開催し、相互訪問や交流連携を図っています。同一自治会内のグループホームとは、盆踊りの参加やお散歩、ラジオ体操を通じて交流連携に努めサービスの向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人が納得安心した上でサービス利用して頂けるよう、随時の見学を行っています。またご都合にて見学が出来ない方にはホーム担当者がご自宅に訪問して面談を行い、入居を進めていくという事もしています。入居待機の方についても時折連絡を取りご様子を伺い、空きが発生した場合には出来るだけスムーズに入居して頂けるような準備をしています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の方と一緒に活動する中で共に学んだり支え合ったりという共有の場を築いています。具体的には玄関や庭先の園芸や食事作りの場面など。入居者にとっては昔取った杵柄で力を発揮する機会、共に手伝う職員に取っては学びと気づきの機会を共に過ごしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>夕食時や夜勤の時など、一人ひとりの希望や意向を聞き取っています。聞き取り困難な場合は、利用者の行動を良く観察して判断します。利用者に届いた、ダイレクトメールなども参考にしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全入居者について、ユニット毎に転倒防止策、食事中の状況、検討内容、結論、残された課題等を3ヶ月に1度カンファレンスで話し合っ、介護計画を作成しています。また、医師や看護師のアドバイスにより、下肢のむくみ対策で足を台の上に乗せる事も介護計画に反映されています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>新たに入居された場合には1ヶ月で見直しを行い、その他は6ヶ月毎に見直しています。入院後に状態が大きく変わった利用者の例では、退院前にカンファレンスを行い、入浴方法の変更が検討され、入浴用リフトを導入しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	生活のメリハリをつける上で要望の多い外出・外食については、その機会を少しでも増やしていきたいと工夫をしています。誕生会を施設内で行うということではなく、その機会を外での外食会とするなどの取り組みを本年6月より行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の健康を守る上で重要な通院についてはホーム側の付き添い対応にて行っています。これについての費用は請求していません。通院介助以外にもホーム協力医の往診(隔週)、訪問歯科診療(隔週)、毎週の訪問看護など適切な医療や健康相談についても実施しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期に関する希望を書面で頂いています。昨年は実際にお一人の方の看取りをホームにて行いました。ご本人やご家族の希望を聞くとともに医師や看護師、ホームにて話し合いながら出来る限りの支援を行いました。施設長やケアマネジャーも泊まり込んでの特別な協力体制を作って看取りを行いました。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、入職時に誓約書を交わしています。個人情報は、事務室の書庫に施錠され保管されています。職員が個人記録を行う時にも、利用者の目線への配慮をしています。トイレ介助もさりげなく行っています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	工作が苦手な場合には、風船バレーに誘ったり、耳が遠い方の場合等は、手作りの数字合わせを行ったり、園芸好きな人には、職員と一緒に植物の世話をしてもらっています。また、自由参加の体操の時間も設定しています。お部屋で縫物や編み物をしたり、絵を描いている人もいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝いや、配膳や下膳の手伝い等希望を聞きながら支援しています。食材は、業者より届けられていますが、工夫して調理しています。食物アレルギーの人には代替食の提供や、毎週土曜日には、独自のメニューも取り入れています。職員と利用者は同じテーブルで同じ食事をしながらさりげなく介助をしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は毎日入浴をされる方もいましたが、今は希望から一日おきになっています。時間や方法はその方に合わせ対応しています。時には拒否の出る方もありますが、介助者を変えアプローチするなど工夫しています。また利用者の負担軽減のためリフト(ブースター)も配備しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの様子に合わせて調理や裁縫、園芸など出来る事に取り組んでいただいています。またこうしたことが出来ない方についても、新聞紙たたみや体操など、興味のあるスポーツ観戦などをその方なりの楽しみや取り組みと考え支援しています。また夜勤の時などはじっくりとお話を聞く事なども行っています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	小学校付近など、コースを決めての散歩やコンビニへの散歩に出かけています。往復でいたい一時間位の外出になりますが車いすの方も一緒に出かけます。また地区センターで開催されるサロンにもこれから参加していきたいと計画中です。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は天候に支障がない限り、玄関ドアは開放したままにしています。ホームを内にも外にも開放して閉塞感をなくしたいという職員の考えからです。これは開設当初より行われているホームの取り組みです。また時には外に出ようとする入居者もいますが、制止することなく、さりげない見守りを行うようにしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームではマニュアルを作成し、定期的に避難訓練を行っています。また職員は消防署主催の防火訓練にも参加し消火器操作法などの訓練を受けています。今年10月には地域の防災訓練に参加することになっており、非常時には地域の協力が必須であるをお願いすることになっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェック表で管理しています。量が少ない時にはご家族や医師・看護師に相談し食べやすい好みのもの等をすすめています。水分は最低でも1,000ml、1日の目標は1,500～1,800mlとして取り組んでいます。また、カロリー制限のある方には医師に相談し、できる範囲での工夫にて対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先で育った季節の花を玄関やリビングに飾ったり、入居者の作品などをあたたかい雰囲気作りに利用しています。環境作りについては整いすぎて殺風景にならないよう心がけています。気候を考えながらできるだけ外の空気を取り入れるようにしています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ、なじみのあるものを持ち込んで頂いています。ホームで作った作品や生活の写真などの飾り付けもしています。衣類など収納については雑然としやすいので時々一緒に整理したり、毎日使う寝間着などはわかりやすいカゴにたたんで入れ、目につきやすい決まった場所に置く工夫をしています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム いきいきの家 泉
(ユニット名)	鎌倉
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	高井真澄
記入日	平成 20 年 8 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念や心構え及びホーム独自の理念を掲示して、職員と共に共有し、日々生かしています。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は法人とホームの理念や目標については共有し、朝礼・夕礼また日常の業務の中で話し、理念の実践に向けて日々取り組んでいます。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの玄関は常に開放しており、来訪した際に見やすい場所に掲げてある。他の掲示物と共に閲覧してもらっています。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶は欠かさないようにしている。散歩の時などにも、気軽に立ち寄ってもらえるような声掛けを行っています。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所当初から自治会に加入して、自治会主催の盆踊り等の行事や清掃活動に参加して近隣の方々や他施設との交流を図っています。また、近隣のサロンに参加されているお年寄りの方が来訪されて、手芸を教えて頂いたりしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が相談・見学に来られ、その後入居いただいています。		地域の中学生が「ふれあい体験」のため来訪します。そこで利用者・職員と共に作品作り等ができるように計画をしています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価用紙を配布し、それぞれリーダーがまとめを行なって提出しています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19.8月より開始し、現在まで4回開催しています。そこで活動状況報告を行い、意見交換したり他施設の報告なども参考とし、サービス向上に努めています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉区GH連絡会などに参加して情報収集し、サービスの向上に取り組んでいます。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実践者研修で、講習を受けています。		権利擁護の外部研修に参加の予定があり、活用していきたいと考えています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行われていません。利用者との日常会話などから、虐待の兆候を見逃さないよう注意を払っています。また、管理者は指導しています。		虐待に関して外部研修及び施設内・外部の接遇研修参加の予定をしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を説明し、利用者・家族のご理解と納得した上で契約をしています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者と職員が日常雑談する雰囲気をつくり、意見・苦情・相談が言えるよう、心がけて努めています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末に各利用者の担当が金銭出納帳と領収書等を添付し、家族と精算をしている。 毎月家族に生活状況報告書及び三ヶ月に一度「いきいき通信」を発行し報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項の説明の際に苦情相談機関についてお話している。家族と積極的に関わり、苦情・不満の意見が出た場合は職員一同で共有できるよう努めている。</p>	<p>ご家族より苦情・意見をいただくために、意見箱の設置を考えています。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼や職場連絡会等で意見や提案を開き、施設運営に反映されている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者が日ごろから勤務調整に努め、利用者への対応に心掛けている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホーム内のユニットの移動はありますが、他施設への移動等はなく馴染みの職員による支援を受けられるよう配慮をしています。 前任管理者は異動がありました。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に交通費を支給して外部研修を経験させ、その結果をレポートにまとめて他職員に報告し、周知させています。またケアマネージャより、介護指導をさせています。		外部研修には、積極的に参加していく計画があります。また、各個人で余暇を利用して講習に参加したりもしています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や連絡会を通してのネットワークづくりや、打ち合わせなどで相互訪問を通してサービスの質の向上の取り組みをしています。		自治会の行事参加をすることで、地域の同業者と交流を図ることができました。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	癒されるように季節の草花を植え、鑑賞できるように心掛けています。また、職員が利用者と離れて一息入れられる休憩場所を確保しています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力に対して賞賛の言葉をかけてもらい、向上心を持ち続けられるよう配慮されています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前、入居後の状況を理解し意向を受け入れている。利用者又は職員間でも話し合う機会を持っています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	ご家族の状況を理解し、ご家族の不安を解消できるよう話し合う機会を持って信頼関係をつくっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を提供できるよう工夫し対策を考えています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上で、安心してサービスを利用していただく為に、ご家族や本人に見学をして頂いたり、見学の出来ない方にはホームより利用者を訪問し面談を行ってから入所頂いています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に展示物を作ったり、新聞整理の作業を一緒に行ないながら、利用者の若い頃の話の聞いたりする事で、学んだり支えあう関係を築いています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を取り、家族の思いを職員が共有する事で利用者を支援しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者の絆が切れることのないように連絡を取りあい情報交換をしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の昔話等を聞き、その時代の出来事などを話題にすることにより、思い出をふくらませるようにしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のもめごとには職員がすぐ対応し、両方の意見などを聞き孤立する事のないように配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も気軽に立ち寄ってもらえるよう、行事の日程やいきいき通信などを郵送している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を気兼ねなく話し合える雰囲気づくり(夕食後などにゆっくりと時間を取って、一人ひとりと会話する出来る時間をつくる事)や把握が困難な利用者には返答がしやすい声掛けをしながら、また細かい表情・しぐさ等を見逃さずに意向を汲み取るようにしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりを理解するために、家族や利用者との日常会話の中で、これまでの生活歴や暮らし方などを把握できるように努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	安全・安楽に心掛け、生活リズム・習慣・体調の変化等を記録し、職員一同情報を共有できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や3ヶ月に一度のカンファレンスにおいて、職員全員の意見を聞き介護計画を作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは入所後一ヶ月で、その後は六ヶ月で行っています。ただし、状況に変化がある場合は、適宜見直しを行い介護計画を作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアをしながら工夫した点、そこから得られた結果を経過及び生活記録として残し、改善すべき問題点は見直しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			利用者の誕生日に、レストランで希望の食事ができるようにしたいと考えています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	職員の理解を深める為、地域の連絡会や消防署の講習会等には随時参加しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前の担当ケアマネージャやケースワーカーと情報交換しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や事前打ち合わせ及び連絡会などで情報交換している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ユニット毎に隔週の訪問診療(実質的には毎週)及び隔週の訪問歯科診療、週1回の訪問看護の来訪があり、診療及び健康相談を実施しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症について相談できる医師が毎週来訪する際に相談したり、精神科受診の際に医師に相談できるようにしています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度の訪問看護が来訪します。その際、健康相談や医療活用の支援を受けています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と相談をしながら、早期退院に向けて話し合っています。また、支援医師・看護師・相談員・理学療法士に退院後、生活していく上での注意点なども相談し、支援につなげている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期に関する希望を書面で提出して頂いています。重度化した時には、家族・かかりつけ医等と話し合い方針を決めた。さらに協力病院への入院の際も関係者と話し合い、方針を共有しました。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師・看護師に「ホームでできること」の確認をされることもあり、相談の機会も少なくなかった。重度化した際、ホームで出来る範囲の支援を行いました。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際は、十分な話し合いと情報交換を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入社時に研修を行っており、一人ひとりの個人情報を把握して言葉掛けに配慮をしています。また、個人情報の保管には夜間の施錠やホーム外に持ち出さない等漏えい防止に心掛けています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>利用者が自分なりに決めて行っていることは尊重し、思いや希望を表せない利用者には解りやすく説明し支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>動作範囲やペースに合わせたレクリエーションを工夫したり、個々の能力や希望に合わせて、洗濯たたみや調理、掃除機掛け、拭き掃除を日課にできるように、支援しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者と買い物に出掛け、好みの衣類を選択できるように配慮し、理美容については、2か月に一度の訪問理美容にてカット・パーマ・カラーを行っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の能力に合わせて、準備・配膳・下膳等を一緒にしています。食事と同じテーブルで摂るようにしています。</p>	<p>毎週土曜日は各ユニットで独自のメニューを作るようにしました。徐々に回数を増やしていく予定です。また、利用者に希望食のアンケートを取り、生かしていきたいと考えています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者が希望する飲み物・おやつ等はなるべく好みの物を提供できるようにしています。(形態は本人の状況に合わせて)。飲酒については、依存症の既往歴の利用者が数人いる事も考え、ホームとして禁止しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	すぐにおむつを使用するのではなく、布製のトレーニングパンツを使用したり、排泄チェック表にてパターンを把握し、声掛けやトイレ誘導をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴を実施しています。入浴時間や入浴方法も、希望に合わせて対応しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できるように、日中は活動的に過ごしてもらったり、居室やベッド回りの清潔保持、また室温管理にも気をつけています。		
室温				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて洗濯たたみや拭き掃除をお願いしています。また会話から過去の得意なことを引き出して、役割を担ってもらっています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、ホームで金銭管理をしていますが、外出時に本人に財布をもってもらい、自身で支払いができるように支援しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に問題がなく希望があれば毎日でも散歩に出掛けたり、利用者によっては近くのコンビニに雑誌を買いに行ったりしています。		地域のサロンにも参加することを検討中です。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春・秋の行楽行事として、動物園や植物園への外出を実施している。普段、散歩なども参加されない利用者もこのような外出には参加されています。また、家族と外出・外泊する機会も少なくありません。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話が出来るように支援している。切手類も常備しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は常時可能にしています。希望があれば、知人等の訪問も受けられるように支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は身体拘束によって受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束のないケアを実施しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけず解放したままにしている事が多いです。一人で屋外へ出掛けようとするような時には声掛けをして行動を把握できるようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜通して利用者を見守りやすい位置にいて、様子を把握して安全に注意しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを把握して管理方法の取り決めをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、想定される事故を検討。実際に起きた事故やヒヤリ・ハットをもとにミニカンファレンスを開き、再度検討し事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会で応急手当や初期対応の訓練を実施し、マニュアルを作成して常時確認できるようにしている。		消防署で行われる救急蘇生法などの講習等を順次受講して行こうと考えています。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム単位で定期的に昼夜の火災を想定し、利用者も参加して避難訓練を行っています。また、数名の職員で消防署主催で他事業所と合同の消防操作法訓練にも参加しています。		消防署主催の訓練にも、職員が順次参加していくことを考えています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	職員は利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており、家族等に対しても状況とリスクや対応策について説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、歩行・摂食等のADL等に変化があれば速やかに管理者及び訪問看護師に連絡し、支持を仰ぎ記録を残している。各勤務交代時には申し送りを行って情報の共有をしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服の種類や効能・副作用について理解している。また、いつでも確認できるように個人別にファイルしてある。変更があった際は、記録・申し送りで伝わるようにしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分・適度な運動が有効であることや影響等を理解している。個人の状況によっては牛乳で対応したり、散歩やレクリエーション等で体を動かすことに心掛けています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケア(舌ブラッシング含)を行い、個人の状況に合わせた支援を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日チェックして管理しています。摂取量の低下が著しい場合は、調理方法や形態を変えてみたり、家族・看護師・医師に相談して食べ易い物や好みの物で補ったりしています。一日1,500～1,800mlを目安にしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを職員が見やすいところに置き、いつでも確認できるようにしています。また勉強会も実施しています。		感染症対策指導者養成研修の参加を予定しています。また、職員が個人的に講習会への参加もしています。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理終了後、使用した布巾・まな板・食器等は塩素系の物で消毒を行い、洗浄・乾燥器で乾燥しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花木を植えている。また、季節の花を楽しんでもらえるように種や苗を交換しています。日中玄関は、開放しており、出入りしやすい玄関にしています。		玄関の壁に「気軽に立ち寄ってください」というような、お洒落なプレートを取り付ける予定です。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先で育った季節の花を玄関やリビングに飾ったりしています。また、食事中はやさしい音楽を選曲して適切な音量で流して、心地よく過ごせるような工夫をしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パテオのスペースには腰掛けが設置してあり、一人になれたり、数人過ごせるようになっていました。また、リビングにはソファやマッサージ機が設置してあるため、ゆったりと過ごす工夫をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個人の好みや希望に合わせた物や、なるべく使い慣れた物や馴染みのある物を用意してもらうことで、居心地よく過ごせるように工夫しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調設備は居室・居間・浴室等に完備されている。換気は適宜行い温度設定は利用者の希望と状況に応じてこまめにおこなっています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は滑りにくい素材で出来ている。トイレや浴室等は手すりやバリアフリーになっており、車椅子対応のトイレは各ユニットで1ヶ所ずつあります。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の希望や状況に応じて提供しています。また、時計やカレンダーを見やすい位置に配置するように配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日光浴や読書等を用意し、憩いの空間になるよう配置している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四季折々のやさしさを感じられるような、花の絶えないホーム作りに取り組んでいます。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム いきいきの家 泉
(ユニット名)	江ノ島
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	高井眞澄
記入日	平成 20 年 8 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方が相談・見学に来られ、その後入居いただいています。</p>		<p>地域の中学生が「ふれあい体験」のため来訪します。そこで利用者・職員と共に作品作り等ができるように計画をしています。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員に自己評価用紙を配布し、それぞれリーダーがまとめを行って提出しています。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成19.8月より開始し、現在まで4回開催しています。そこで活動状況報告を行い、意見交換したり他施設の報告なども参考とし、サービス向上に努めています。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>泉区GH連絡会などに参加して情報収集し、サービスの向上に取り組んでいます。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実践者研修にて、講習を受けています。</p>		<p>権利擁護の外部研修に参加の予定があり、活用していきたいと考えています。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待は行われていません。利用者との日常会話などから、虐待の兆候を見逃さないよう注意を払っています。また、管理者は指導しています。</p>		<p>虐待に関して外部研修及び施設内・外部の接遇研修参加の予定をしています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	重要事項説明書を説明し、利用者・家族のご理解と納得した上で契約をしています。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者と職員が日常雑談する雰囲気をつくり、意見・苦情・相談が言えるよう、心がけて努めています。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月末に各利用者の担当が金銭出納帳と領収書等を添付し、家族と精算をしている。 毎月家族に生活状況報告書及び三ヶ月に一度「いきいき通信」を発行し報告している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	重要事項の説明の際に苦情相談機関についてお話している。家族と積極的に関わり、苦情・不満の意見が出た場合は職員一同で共有できるよう努めている。		ご家族より苦情・意見をいただくために、意見箱の設置を考えています。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	朝礼や職場連絡会等で意見や提案を開き、施設運営に反映されている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	管理者が日ごろから勤務調整に努め、利用者への対応に心掛けている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ホーム内のユニットの移動はありますが、他ホームへの移動等はなく馴染みの職員による支援を受けられるよう配慮をしています。 前任管理者は異動がありました。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に交通費を支給して外部研修を経験させ、その結果をレポートにまとめて他職員に報告し、周知させています。またケアマネージャより、介護指導をさせています。		外部研修には、積極的に参加していく計画があります。また、各個人で余暇を利用して講習に参加したりもしています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や連絡会を通してのネットワークづくりや、打ち合わせなどで相互訪問を通してサービスの質の向上の取り組みをしています。		自治会の行事参加をすることで、地域の同業者と交流を図ることができました。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	癒されるように季節の草花を植え、鑑賞できるように心掛けています。また、職員が利用者と離れて一息入れられる休憩場所を確保しています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力に対して賞賛の言葉をかけてもらい、向上心を持ち続けられるよう配慮されています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前、入居後の状況を理解し意向を受け入れている。利用者又は職員間でも話し合う機会を持っています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	ご家族の状況を理解し、ご家族の不安を解消できるよう話し合う機会を持って信頼関係をつくっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を提供できるよう工夫し対策を考えています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上で、安心してサービスを利用していただく為に、ご家族や本人に見学をして頂いたり、見学の出来ない方にはホームより利用者を訪問し面談を行ってから入所頂いています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から園芸や調理を教わったり展示物を一緒に作り、暮らしの知恵を職員が学びながら支えあう関係を築いています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を取り、家族の思いを職員が共有する事で利用者を支援しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者の絆が切れることのないように連絡を取りあい情報交換をしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の昔話等を聞き、その時代の出来事などを話題にすることにより、思い出をふくらませるようにしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のもめごとには職員がすぐ対応し、両方の意見などを聞き孤立する事のないように配慮しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も気軽に立ち寄ってもらえるよう、行事の日程やいきいき通信などを郵送している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を気兼ねなく話し合える雰囲気づくり(夕食後などにゆっくりと時間を取って、一人ひとりと会話する出来る時間をつくる事)や把握が困難な利用者には細かい表情・しぐさ等を見逃さずに意向を汲み取るようにしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりを理解するために、家族や利用者との日常会話の中で、これまでの生活歴や暮らし方などを把握できるように努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	安全・安楽に心掛け、生活リズム・習慣・体調の変化等を記録し、職員一同情報を共有できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や3ヶ月に一度のカンファレンスにおいて、職員全員の意見を聞き介護計画を作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは入所後一ヶ月で、その後は六ヶ月で行っています。ただし、状況に変化がある場合は、適宜見直しを行い介護計画を作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアをしながら工夫した点、そこから得られた結果を経過及び生活記録として残し、改善すべき問題点は見直しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の誕生日のお祝いに、レストランで希望の食事ができるように支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	職員の理解を深める為、地域の連絡会や消防署の講習会等には随時参加しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前の担当ケアマネージャやケースワーカーと情報交換しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や事前打ち合わせ及び連絡会などで情報交換している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ユニット毎に隔週の訪問診療(実質的には毎週)及び隔週の訪問歯科診療、週1回の訪問看護の来訪があり、診療及び健康相談を実施しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症について相談できる医師が毎週来訪する際に相談したり、精神科受診の際に医師に相談できるようにしています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度の訪問看護が来訪します。その際、健康相談や医療活用の支援を受けています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と相談をしながら、早期退院に向けて話し合っています。また、支援医師・看護師・相談員・理学療法士に退院後、生活していく上での注意点なども相談し、支援につなげている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期に関する希望を書面で提出して頂いています。重度化した時には、家族・かかりつけ医等と話し合い方針を決め、さらに協力病院への入院の際も関係者と話し合っ、方針を共有できるように対応します。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師・看護師に「ホームでできること」の確認をされることもあり、相談の機会も少なくなかった。重度化した際、ホームで出来る範囲の支援を行います。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際は、十分な話し合いと情報交換を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入社時に研修を行っており、一人ひとりの個人情報を把握して言葉掛けに配慮をしています。また、個人情報の保管には夜間の施錠やホーム外に持ち出さない等漏えい防止に心掛けています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>利用者が自分なりに決めて行っていることは尊重し、思いや希望を表せない利用者には解りやすく説明し支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>動作範囲やペースに合わせたレクリエーションを工夫したり、個々の能力や希望に合わせて、洗濯たたみや調理、掃除機掛け、拭き掃除を日課にできるように、支援しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者と同じ買い物に出掛け、好みの衣類を選択できるように配慮し、理美容については、店に出向くことが可能な利用者には外出支援し、そうでない利用者には2か月に一度の訪問理美容にてカット・パーマ・カラーを行っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の能力に合わせて、準備・配膳・下膳等を一緒にしています。食事と同じテーブルで摂るようにしています。</p>	<p>毎週土曜日は各ユニットで独自のメニューを作るようにしました。徐々に回数を増やしていく予定です。また、利用者に希望食のアンケートを取り、生かしていきたいと考えています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者が希望する飲み物・おやつ等はなるべく好みの物を提供できるようにしています。(形態は本人の状況に合わせて)たばこは所定の場所で喫煙しています。飲酒については、依存症の既往歴の利用者が数人いる事も考え、ホームとして禁止しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	すぐにおむつを使用するのではなく、排泄チェック表にてパターンを把握し、声掛けやトイレ誘導をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴を実施しています。入浴時間も希望に合わせてられるよう対応し、毎日入浴をされる利用者もいます。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できるように、日中は活動的に過ごしてもらったり、居室やベッド回りの清潔保持、また室温管理にも気をつけています。		
室温				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて家事や調理、裁縫や植木の手入れ等をお願いしています。また会話から過去の得意なことを引き出して、役割を担ってもらっています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、ホームで金銭管理をしていますが、外出時に本人に財布をもってもらい、自身で支払いができるように支援しています。また、一部の利用者には少額を渡し、安心してもらえるようにしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に問題がなく希望があれば、毎日でも散歩に出掛けています。また、利用者だけ(3名)で30分程度の散歩にも出掛けています。		地域のサロンにも参加することを検討中です。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春・秋の行楽行事として、動物園や植物園への外出を実施している。普段、散歩なども参加されない利用者もこのような外出には参加されています。また、家族と外出・外泊する機会も少なくありません。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話が出来るように支援している。切手類も常備しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は常時可能にしています。希望があれば、知人等の訪問も受けられるように支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は身体拘束によって受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束のないケアを実施しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけず解放したままにしている事が多いです。一人で屋外へ出掛けようとするような時には声掛けをして行動を把握できるようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜通して利用者を見守りやすい位置にいて、様子を把握して安全に注意しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを把握して管理方法の取り決めをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、想定される事故を検討。実際に起きた事故やヒヤリ・ハットをもとにミニカンファレンスを開き、再度検討し事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会で応急手当や初期対応の訓練を実施し、マニュアルを作成して常時確認できるようにしている。		消防署で行われる救急蘇生法などの講習等を順次受講して行こうと考えています。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム単位で定期的に昼夜の火災を想定し、利用者も参加して避難訓練を行っています。また、数名の職員で消防署主催で他事業所と合同の消防操作法訓練にも参加しています。		消防署主催の訓練にも、職員が順次参加していくことを考えています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	職員は利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており、家族等に対しても状況とリスクや対応策について説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、歩行・摂食等のADL等に変化があれば速やかに管理者及び訪問看護師に連絡し、支持を仰ぎ記録を残している。各勤務交代時には申し送りを行って情報の共有をしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服の種類や効能・副作用について理解している。また、いつでも確認できるように個人別にファイルしてある。変更があった際は、記録・申し送りで伝わるようにしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分・適度な運動が有効であることや影響等を理解している。個人の状況によっては牛乳で対応したり、散歩やレクリエーション等で体を動かすことに心掛けています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケア(舌ブラッシング含)を行い、個人の状況に合わせた支援を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日チェックして管理しています。摂取量の低下が著しい場合は、調理方法や形態を変えてみたり、家族・看護師・医師に相談して食べ易い物や好みの物で補ったりしています。一日1,500～1,800mlを目安にしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを職員が見やすいところに置き、いつでも確認できるようにしています。また勉強会も実施しています。		感染症対策指導者養成研修の参加を予定しています。また、職員が個人的に講習会への参加もしています。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理終了後、使用した布巾・まな板・食器等は塩素系の物で消毒を行い、洗浄・乾燥器で乾燥しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花木を植えている。また、季節の花を楽しんでもらえるように種や苗を交換しています。日中玄関は、開放しており、出入りしやすい玄関にしています。		玄関の壁に「気軽に立ち寄ってください」というような、お洒落なプレートを取り付ける予定です。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先で育った季節の花を玄関やリビングに飾ったりしています。また、食事中はやさしい音楽を選曲して適切な音量で流して、心地よく過ごせるような工夫をしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パテオのスペースには腰掛けが設置してあり、一人になれたり、数人過ごせるようになっていました。また、リビングにはソファやマッサージ機が設置してあるため、ゆったりと過ごす工夫をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個人の好みや希望に合わせた物や、なるべく使い慣れた物や馴染みのある物を用意してもらうことで、居心地よく過ごせるように工夫しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調設備は居室・居間・浴室等に完備されている。換気は適宜行い温度設定は利用者の希望と状況に応じてこまめにおこなっています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は滑りにくい素材で出来ている。トイレや浴室等は手すりやバリアフリーになっており、車椅子対応のトイレは各ユニットで1ヶ所ずつあります。転倒リスクの高い利用者には、夜間の排泄のみポータブルトイレを使用頂き安全・安楽に配慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の希望や状況に応じて提供しています。また、時計やカレンダーを見やすい位置に配置するように配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日光浴や読書等を用意し、憩いの空間になるよう配置している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四季折々のやさしさを感じられるような、花の絶えないホーム作りに取り組んでいます。